



支援員だより

第2号

発行者：山口県・財団法人山口県ひとづくり財団

もくじ	
P 1	入門編研修会開催
P 2	応用編研修会開催 支援員活動だより
P 3	先生 教えて！ 山口の自然（秋吉編）
P 4	お知らせ・イベント情報

皆様、お元気でご活躍のことと思います。

希少野生動植物種保護支援員活動も今年度で3年目となりました。今年度から(財)山口県ひとづくり財団が支援員研修会を実施することになりました。

2007年10月31日現在の登録者数は325名に達しました。多くの方々に、ご理解・ご協力いただけることは、絶滅のおそれのある野生動植物の保護を進めていくにあたり大変心強いことです。また、皆様が学ばれた知識を、周りの方々にも伝えていただき、希少野生動植物種保護支援員の輪が、どんどん広がっていけば・・・と願っております。

さて、今年度の入門編研修会を8月4日(土)に秋吉台エコ・ミュージアムで、応用編研修会を10月13日(土)に国立山口徳地青少年自然の家で開催いたしましたので、その様子をお伝えします。

午前中はテキストを用いた講義。午後からは、大正洞内観察及び大正洞周辺植物観察等。受講者23名の皆さんは熱心に研修を受けられました。



今回の会場であるエコ・ミュージアムは大正洞のすぐ側に建つ緑の屋根の建物。年間を通して自然とふれあい・学べる施設であり、毎月自然とふれあう行事が行われているところです。

入門編研修会開催

講義では、「里地・里山が担ってきた役割」や「自然は多様で地域特性を持っていること、また 私たちが生活していくための利便性と野生動植物の住みよい環境の保全をどのように両立させたらよいのか。」等を学び、希少野生動植物を保護するためには、多くの方々の情報が必要であることが説明されました。また、カスミサンショウウオの生息地を守った道路建設の事例から、野生動植物への理解が進めば、共生する知恵を出し合えることを学びました。そして、今からすぐに行うこととして『生物暦』を作ることが提案されました。



『生物暦』の作り方として、自宅近くの池などをフィールドとし、どんな生き物がどの位の数 観察されたか、日時・天気・気温・写真等を併せて、継続して記録する。そうすると、1年2年と経つと環境の変化が見えてくるようになることを教わりました。

また、ビオトープ作りに関わった団体等の活動内容の紹介から、地域の特性を考慮した活動の重要性を教わりました。

午後からの観察会では、大正洞内で子育て中のアブラコウモリやヨコエビを観察、洞周辺植物観察では、洞穴効果(夏は涼しく、冬暖か)を実感。気温31℃ 湿度77%のエコ・ミュージアム前が、洞窟手前では気温17℃ 湿度60%に。この気温差により、この地では、冷涼から暖帯地に生息する植物を同時に観察できました。



応用編研修会

応用編を10月13日(土)に国立山口徳地青少年自然の家で開催しました。受講者42名。

今回の内容は、オリエンテーションと植物観察です。

オリエンテーションでは、応用編テキストを用いて、支援員のみなさんが植物観察をする時の注意事項を伝授。マーキングをして個体識別をすることや丹念に観察すること、観察場所を定着させること等。記録で大切なことは、「いつ・どこで・何を・どうした」を必ず入れることを学びました。そして、成果は発表すること。



植物観察の視点として、「マクロな目とミクロな目を持つこと」「五感を使うこと」「植物を点で見るのではなく、面で見ること」を学びました。これは、観察する植物だけでなく、他の植物や生き物などとの関わり、すなわち、お互いが影響を与えあっていることを考えながら、観察する必要性を表現したもの。

マルバルコウ
愛らしいオレンジの花



日暮ヶ岳の植物観察では、約20種の植物をとりあげ、葉の付き方や茎の形、酷似した植物の見分け方など、その特徴をルーペや五感を使って調べる充実した内容になりました。

意見交換では、外来種についての質問や受講者が自分の活動や興味を持っていることを紹介し終了しました。

また、アンケートでは、「観察することの重要性が心に残った」という回答を多くいただきました。



研修会アンケートより

『何が希少種なのかは分かったが、絶滅を食い止めるための具体的な対策、活動が分からない。』

○ この質問については、県自然保護課からお答えします。

研修会において支援員の皆様にお話をしていますが、身近な自然に触れたり観察記録を付けたりし、そのときの発見や感動を周りの人たちに伝え、その発見や感動を共有することから始めてみられてはいかがでしょうか。

既に、取り組んでおられるのであれば、自然保護活動を行っている団体等の活動に実際に参加してください。こうした活動については、研修会等を通じて、皆様に情報提供して参ります。



支援員活動だより



NPO法人 水環境地域ネットワーク
岡谷優子さん より

「外来植物侵入状況調査」実施中 協力してくださる方を募集中です！

私たち人間は便利なライフスタイルを求めて、周囲の自然を都合よく造り変えてきました。希少野生植物が減る原因に外来植物の侵入があります。今も昔も皆さんが庭や公園などに植えている植物が、野生化して外来植物として知らないうちに拡がってきています。そして、「雑草」として除草している在来植物がいずれ希少になるかもしれません。既に、自然界に入り生態系の一部となってしまった外来植物を完全に駆除することはできません。但し、今以上に拡がることを防ぎ、また、種類が増えるのを防ぐことはできます。自然の変化は熱帯雨林などの遠くにあるのではなく、すぐ身近な場所で起きています。今回の調査は、専門家ではなく、自然に興味のある多くの市民の皆さんと、身近な自然に目を向けて分布を調べます。そして、「在来の自然を守り再生する」ために、何ができるのかを一緒に考えていきたいと思っています。

(今は、メリケンカルカヤを調査中。季節ごとに変える予定。)

【問い合わせ先】電話 0834-21-5822 (岡谷)

※メリケンカルカヤについては、次のホームページに掲載されています。ご覧ください。

<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/wild/meriken/photo.htm>



メリケンカルカヤ



このような状態でも種を飛ばし続ける

先生 教えて！



「最近、地球温暖化が話題に上っているけど、地球温暖化と生物との関係について教えてください。」

ジュニア支援員の方からの疑問を研修会の講師 山岡郁雄山口大学名誉教授に答えていただきます。

地球温暖化が生物にどのように影響するのかを考えてみます。

【微視的】 生物が生きる為に必要な要素の一つに、酵素の働きがあります。酵素が働く為に重要な条件は最適温度です。もし、温暖化が進むと働きができなくなる酵素が生じるかもしれません。そうなることで生命が脅かされることとなります。

【食物連鎖的】 幾つかの生物が地球上から消えていくと、その生物に依存して生きている別の生物が生きられなくなります。食物の繋がりがこそ地球上の生物の生きてゆく基盤なのです。

地球温暖化がこれ以上進むと必ず何処かで絶滅する生物が生じます。そうすると上のような関係から人を含め生き物の命が危険にさらされる事は間違いないでしょう。



【酵素】・酵素の主成分はタンパク質で、高温になると性質が変わり活性を失います。
・生体内での役割は、生命を構成する有機・無機化合物を取り込み、必要な化学反応を引き起こすことにあり、消化や吸収・代謝・排泄等に至るまでの様々な過程に関与しています

※地球温暖化については、次のホームページに説明してあります。

<http://www.yobou.or.jp/yccca/relate.htm>

山口の自然



秋吉編（第1期入門編の講師 山崎学芸員、田原指導員に紹介していただきます）

この愛らしい仲間たちに会いに行きませんか。そして、ぜひ「野生は自然の中が一番！記憶に、心に持ち帰りましょう。現物は連れて帰らないで。」と周りの方にお伝えください。

ーコウモリー

コウモリは、最も身近な野生動物のひとつです。コウモリたちは主に夜行動する「夜行性」の動物なので、夕方暗くなる頃にねぐらである洞窟や橋の下のすきま、民家の屋根裏などから出てきて、エサとなる昆虫を食べ、朝になると帰っていきます。このコウモリたち、実は大変食いしん坊で、一頭のコウモリが一晩に食べる昆虫の量は、体重の3分の1から3分の2といわれています。体重6gのモモジロコウモリ（レッドデータやまぐちでは準絶滅危惧種）と体重0.003gのアカイエカを例にとると、一晩に2gから4g、つまり600匹から1200匹もの虫を食べている計算になります。コウモリが側にいれば、蚊取り線香も必要なさそうですね。（秋吉台科学博物館 山崎学芸員）



ーウメバチソウの日齢（にちれい）ー

秋吉台では晩秋の野草が花の見頃を迎えています。中でも、梅の花に似た「ウメバチソウ」はわたしのお気に入り。草原のあちこちに、白い花を散りばめて咲かせる様子は、地上に降りたお星様を思わせます。このウメバチソウ、実は咲いてからの『日齢』が分かるのです。花が開くと、毎日一本ずつ、雄しべが外へと開きます。雄しべは5本あるので、5才（5日）までの日齢が分かります。それから先の日齢を確かめるのは、女性に年齢を尋ねるのと一緒に野暮というものでしょうか。熟れて行く草紅葉（くさもみじ）を凜として引き立てる、秋吉台の大切な野草です。



（秋吉台エコ・ミュージアム 田原指導員）



お知らせ

☆ 研修会について

支援員研修会の受講案内通知はまだ受講されたことのない方にしておりますが、再受講を希望される方はお申し出ください。(※ただし、未受講者を優先とします)

☆ あなたの活動募集!

支援員の方で野生動植物の保護活動をされている方があれば、県自然保護課または環境学習推進センターまで報告をお願いします。報告の中から『支援員だより』や当センターのホームページ上の【学ぶ】
【手づくり事業等活動支援】のコーナーに掲載していきたいと考えています。お待ちしております!
また、団体の活動情報も掲載しますので、是非ご覧になり参加してみてください。

※ホームページアドレス <http://eco.pref.yamaguchi.jp/learning/>

☆ 住所変更の場合は県自然保護課までお知らせください。(電話 083-933-3050)



イベント情報

(自然環境学習拠点施設)

	秋吉台エコ・ミュージアム TEL 08396-2-2622	きらら浜自然観察公園 TEL 0836-66-2030	つノしま自然館 TEL 0837-86-0430
11月	11日(日) 自分の秋を創る 	11日(日) バードウォッチング入門 ～ヨシ原の冬鳥～ 25日(日) 里山の自然探訪 ～小野湖のオシドリ観察～	10日(土) 自然観察会 ～星空ウォッチング～
12月	9日(日) クリスマスリース作り	9日(日) バードウォッチング入門 ～カモってどんな鳥?～ 16日(日) クリスマスリースを作ろう ～アイデアいっぱい! 手作りリース～	
1月	13日(日) コウモリの観察 27日(日) 森の昆虫教室・冬	13日(日) バードウォッチング入門 ～越冬する鳥たち～	
2月	10日(日) 冬の遊歩道・火道に行く 24日(日) 鉱物を訪ねて	10日(日) バードウォッチング入門 ～冬の猛禽～	23日(土) 自然観察会 ～ユリア貝を探そう～
3月		9日(日) バードウォッチング入門 ～春がやってきた!～	22日(土) 自然観察会 ～春は渡りの季節～

※イベントによっては申し込み、参加費が必要な場合があります。詳細は各施設にお問い合わせください。

〈編集後記〉

今回、『山口の自然』コーナーで、コウモリの紹介をしてくださった山崎学芸員に、「食いしん坊のコウモリに肥満はないの?」とちょっと羨ましく思え質問したところ、「コウモリたちはそろそろ冬眠準備に入り、着々と脂肪を増やしているところです。彼らの場合、たくさん食べて太るというよりは、余ったエネルギーを脂肪として蓄えるのです。野生動物は命がけで冬を越すために、本能的にこの戦略をとるんです。」とのこと。自分の生活を考えさせられるとともに、命がけで自然の中で暮らす生物との関わり方を改めて考えています。

発行元：(財) 山口県ひとづくり財団 県民学習部 環境学習推進センター

〒754-0893 山口市秋穂二島1062 (山口県セミナーパーク内)

TEL 083-987-1110 FAX 083-987-1720

URL <http://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/learning/>

